## ホームページのご紹介

●TOPページ

IRページ
最新のIR情報を提供しています。

オスモピュアスペシャルサイト
RO浄水システム「オスモピュア」の一般家庭向け本体無料レンタルサービスについて紹介しています。

プロダクトサイト
小型製品から大規模水処理システム、運転管理まで、お客様のニーズに即した情報を提供します。

## IRカレンダー（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

※平成26年6月27日現在の予定です。

■決算説明会
■招集通知発送
■決議通知・報告書発送
■第2四半期決算説明会
■中間報告書発送

| 決算発表 | 定時株主総会 | 第1四半期決算発表 | 第2四半期決算発表 | 第3四半期決算発表 |
|---|---|---|---|---|

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成26年 | | | | | 第2四半期決算期 | | | | 平成27年 | | 決算期 |


Ecologically Clean
ORGANO
オルガノ株式会社
〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8　経営企画部　TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス　http://www.organo.co.jp/



FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C013080


証券コード：6368

# 第69期報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

Ecologically Clean

オルガノ株式会社

# 経営VISION

企業コンセプト

## Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りの持てる企業を目指す

# 株主の皆様へ

代表取締役社長
内田裕行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第69期事業年度（平成25年度）のご報告をさせていただきます。

## 1．当期の概況

当期におけるわが国経済は、政府の金融緩和政策、円高の修正などを背景に、緩やかな景気回復に向かいつつも、債務危機に苦しむ欧州経済や、成長に減速が見られる中国をはじめとした新興国経済の停滞などにより、全体として先行き不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では企業の設備投資や生産活動に緩やかな持ち直しが見られるものの、本格的な回復には至らず、主たる海外市場であるアジア地域においては、価格競争が一段と激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、平成25年度より３ヵ年の中期経営計画をスタートさせ、「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワン ストップ ソリューション（One Stop Solutions）が提供できる企業グループの実現」を目指し、事業ポートフォリオの転換をさらに加速させ、機動的な開発・製造・営業体制の構築を目指すとともに、一層のコストダウン、工事力の強化により、収益の改善に取り組んでまいりました。

この結果、受注高につきましては、国内では産業全般で受注が増加し、海外においてもほぼ前期並みの受注を確保したことなどから、655億円（前期比8.7%増）となりました。

売上高につきましては、国内では機能商品事業がほぼ前期並みとなった一方、水処理エンジニアリング事業は、電力分野をはじめとして設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少しました。海外においては電子産業分野を中心に順調に推移した結果、売上高620億円（前期比6.9%減）となりました。

利益面につきましては、機能商品事業で採算性が向上したものの、水処理エンジニアリング事業において、売上高減少のほか、売上構成の変化などにより採算性が低下した結果、営業利益８億円（前期比76.2%減）、経常利益11億円（同70.1%減）、当期純利益６億円（同74.1%減）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、中間配当金と同じく１株当たり４円とさせていただきました。これにより当期の年間配当金は１株当たり８円となります。

## 2．次期の見通し

国内では輸出関連企業の業績回復などを受けて、新規設備投資案件の検討がなされるようになってまいりましたが、消費税増税の影響、建設関連資材・労務費の高騰など不安材料もあり、本格的な設備投資の回復には未だ時間がかかるものと思われます。これに対し海外では、当社グループの主たる海外市場である東南アジア地域において、電子産業、飲料・食品産業、火力発電所などで今後とも堅調な設備投資が続くものと見ております。

このような市場環境の中、当社グループは、受注及び売上の拡大に取り組むとともに、コストダウンなど収益の改善に努めてまいります。

次期の業績見通しにつきましては、受注高750億円（当期比14.5%増）、売上高700億円（同12.7%増）、営業利益15億円（同80.0%増）、経常利益14億円（同19.6%増）、当期純利益９億円（同35.5%増）を見込んでおります。

次期の配当金につきましては、業績の見通しを勘案し、当期と同じく１株当たり年間８円（中間配当金、期末配当金ともに１株当たり４円）を予定しております。

## 3．今後の経営方針

当社グループは、近年国内外で大きく変動する経済環境だけでなく、厳しい事業環境に対応するため、現在の中期経営計画を推進してまいりました。

しかしながら、各種産業における国内生産拠点の統廃合や海外移転など、当社グループを取り巻く市場環境の急激な変化は、中期経営計画策定時の想定を大きく上回るものであり、これらの変化に適切に対応するため、経営資源の集中と効率化、市場での競争力強化を目的として、平成26年４月１日付で当社の完全子会社７社の吸収合併を中心としたグループ再編を実施いたしました。

これら合併等による組織体制の変化も踏まえ、現在の中期経営計画で掲げた目標数値を見直すこととし、平成27年度以降の新たな目標数値を再設定することといたします。

一方で現在の中期経営計画で定めた次の重点課題には引き続き取り組んでまいります。

・電力・電子産業における純水／超純水製造分野でのシェア確保
・環境・排水事業分野における積極的な事業展開
・ソリューション・機能商品事業の更なる収益性の向上及び事業拡大
・海外事業における地域市場特性に応じた技術・商品開発の推進
・コストダウン・工事力の強化
・新商品、新事業の速やかな立上げ

## 4．最後に

当社グループは、グループ再編効果の早期実現を図るとともに、今まで以上に結束力を高め、国内外で技術・商品開発力、営業展開力を強化し、事業ポートフォリオの転換、業務効率化、コストダウン、売上利益の拡大に一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

平成26年６月

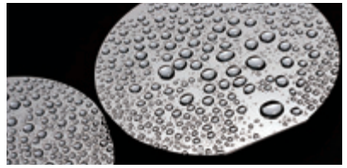
# 事業紹介

オルガノの事業は、『**水処理エンジニアリング事業**』と『**機能商品事業**』に分かれており、『**水処理エンジニアリング事業**』では、大型水処理装置の製造販売を行う「**プラント事業**」と納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「**ソリューション事業**」を展開しています。

## ▶プラント事業

### 電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



### 一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。

### 電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。

東京電力㈱ご提供

### 上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。

### 医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でパイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供しています。

## ▶ソリューション事業

### メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

### 提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

### 水処理アウトソーシング受託事業

#### ■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

#### ■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

#### ■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

#### ■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、状況に応じた迅速な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化からトラブルを予測し、水処理プラントの健全な運転に貢献します。

# 事業紹介

オルガノの事業は、『**水処理エンジニアリング事業**』と『**機能商品事業**』に分かれており、『**機能商品事業**』では、標準製品や水処理薬品及び食品加工材の製造販売を行っています。

## ▶機能商品事業

### 標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、お客様の短納期・低コストへのニーズに応える豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、広く用いられています。

キャビネットタイプ純水装置
PROシリーズ

ユニット型超純水装置
オルトリアUCシリーズ

### 水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転する処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、多様な水処理薬品をラインアップし、装置と組み合わせたトータルシステムの提案により、安定運転を実現します。

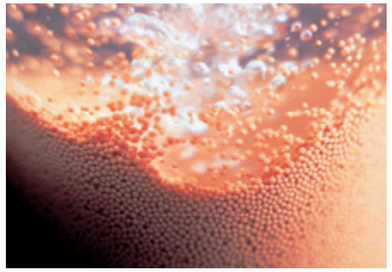
### 食品加工材

主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩で国内トップシェアの実績を有し、日本食品添加物協会の定める製造管理及び品質管理自主基準（食添GMP）の認定を受けた工場において安心・安全な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。

### イオン交換樹脂

#### 非水系分野への応用

イオン交換樹脂と言えば「水処理」の代表的な機能材料ですが、オルガノは水処理以外の分野への応用にも取り組んでいます。
超純水製造分野で培ったイオン交換樹脂のクリーン化技術を応用し、電子材料精製向けの乾燥イオン交換樹脂「アンバーリストDRYシリーズ」及び超クリーンイオン交換樹脂「オルライトDSシリーズ」を開発。電子材料として使用される高純度で高品質な有機溶媒、ポリマー等を製造するプロセスへの適用を進めています。
これら電子材料精製向け樹脂は昨年、第29回日本イオン交換学会技術賞を受賞しました。今後も当社のコア技術であるイオン交換樹脂のさらなる可能性を求めて、新分野を積極的に開拓します。



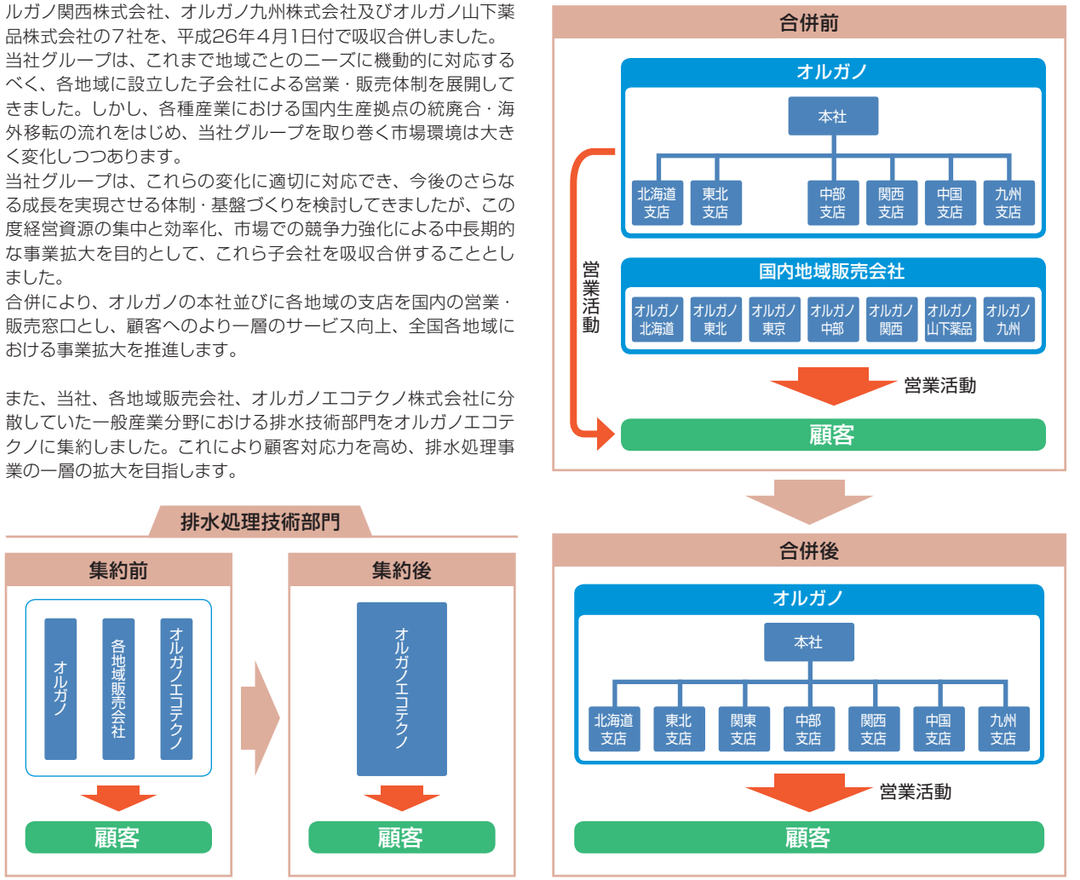
# TOPICS

## 国内完全子会社７社の吸収合併を中心としたグループ再編

当社は、完全子会社であるオルガノ北海道株式会社、オルガノ東北株式会社、オルガノ東京株式会社、オルガノ中部株式会社、オルガノ関西株式会社、オルガノ九州株式会社及びオルガノ山下薬品株式会社の7社を、平成26年４月1日付で吸収合併しました。
当社グループは、これまで地域ごとのニーズに機動的に対応するべく、各地域に設立した子会社による営業・販売体制を展開してきました。しかし、各種産業における国内生産拠点の統廃合・海外移転の流れをはじめ、当社グループを取り巻く市場環境は大きく変化しつつあります。
当社グループは、これらの変化に適切に対応でき、今後のさらなる成長を実現させる体制・基盤づくりを検討してきましたが、この度経営資源の集中と効率化、市場での競争力強化による中長期的な事業拡大を目的として、これら子会社を吸収合併することとしました。
合併により、オルガノの本社並びに各地域の支店を国内の営業・販売窓口とし、顧客へのより一層のサービス向上、全国各地域における事業拡大を推進します。

また、当社、各地域販売会社、オルガノエコテクノ株式会社に分散していた一般産業分野における排水技術部門をオルガノエコテクノに集約しました。これにより顧客対応力を高め、排水処理事業の一層の拡大を目指します。

### グループ再編の概要



## 半導体微細化に対応する超純水ビジネスの取り組み

スマートフォンやタブレット端末をはじめとする各種通信機器やOA機器、エアコンなどの家電製品、自動車向け電装部品など、産業のあらゆる分野で用いられる半導体は、高機能化とともに微細化が急速に進んでいます。半導体製品の製造においては、超純水が洗浄用途で大量に用いられており、当社グループもそれら製品の微細化に対応するため様々な取り組みを進めています。

### 酸化剤除去器を開発

当社グループは、超純水中の過酸化水素を高効率で除去する酸化剤除去器を開発しました。
半導体洗浄用の超純水には、微粒子数、有機物や金属、イオン類などの管理が厳しく要求される一方で、強い酸化力を持ち製品の歩留まりに影響を与える恐れのある過酸化水素についてはあまり注目されてきませんでした。しかし、半導体の微細化が進む中で、今後は過酸化水素除去のニーズが高まると見られています。
今回開発した酸化剤除去器は、超純水を通水するだけで10～40μg/Lの濃度で含まれる過酸化水素を1μg/L以下まで分解することが可能です。また従来装置に比べ25分の1の小型化を実現したこと、機器自体からの不純物の溶出が少ないことから、既に稼働中の設備のユースポイント（実際に超純水による洗浄が行われる箇所）直前に設置が可能であるという特長も有しています。

### 10nm微粒子計測技術を開発

半導体製品の微細化に伴い超純水の純度がさらに求められる中、微粒子などの不純物の除去技術はもちろん、それを確認する分析技術にもさらなる高度化が求められています。
当社グループは、独自開発した膜を利用して、世界で初めて10nm（1億分の1メートル）サイズの微粒子を計測する技術を開発しました。膜を用いることで短期間での分析を実現し、半導体製品の品質・歩留まりの向上に貢献します。

これらの新技術は展示会での展示・出品のほか、国内外に提案を開始しており、既にいくつかの顧客で評価試験を行っています。

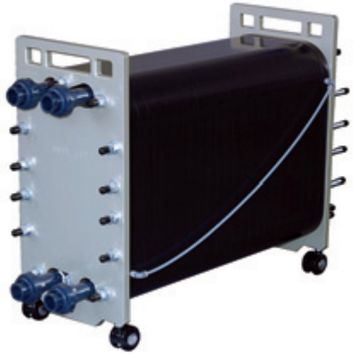
当社グループは、この他にも半導体工場排水からのフッ素回収設備「エコクリスタ」や、半導体基板洗浄用の機能水製造装置「酸還王」など、顧客のニーズに応える様々な独自技術を有しており、国内外の半導体分野に対し、積極的にビジネスを展開しています。

酸化剤除去器

フッ素回収設備
「エコクリスタF-HC」

## 超高流速EDIシステム「EDI-WR」を開発

EDI（Electro Deionization）システムは、電気でイオン交換樹脂を再生する純水製造装置です。再生工程で酸やアルカリなどを用いる一般的な純水製造装置に比べ、再生薬品が不要で廃液が発生しない、連続運転が可能であることなどから、世界的にも需要が拡大しています。
当社グループは、新たに5㎥/時の超高流速処理が可能な「EDI-WR」を開発しました。これまでに培ってきたノウハウをもとに内部構成を最適化することで、高流速運転での高い安定性と低価格を実現し、さらに、コンパクトで軽量、ハンドリングしやすいデザインなど、多くの利点を有しています。
今後、国内市場だけでなく、台湾や東南アジア諸国をはじめとする、よりコスト競争の厳しい海外での各種産業分野に向けて拡販を進めます。

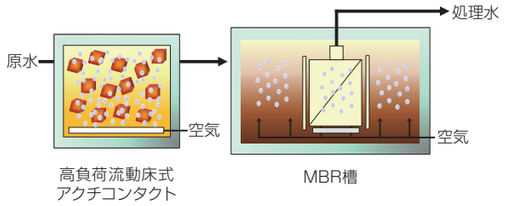


「EDI-WR」スタック

## 汚泥低減型高速排水処理システムを開発

工場から排出される有機系排水処理向けに、汚泥低減型高速排水処理システムを開発し、販売を開始しました。
本システムは、MBR槽の前段に生物処理装置「アクチコンタクト」を設置することで高負荷の有機系排水を高効率で処理する技術です。アクチコンタクトで排水中の有機物負荷を低減し、MBR法で仕上げ処理をすることで、高い処理効率が得られることから、MBR法単独システムに比べ汚泥発生量を30～50%低減するとともに、20～30%のコンパクト化を実現しました。
食品、飲料分野などを中心とした幅広い業種をターゲットとして拡販を進めます。

※MBR法：膜分離活性汚泥（Membrane Bioreactor）法の略称で、有機物を分解する微生物処理と膜ろ過処理を組み合せることで、清澄な処理水を得る技術です。




アクチコンタクト－MBRシステム

# 財務諸表

## 連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期末（平成26年3月31日現在） | 前期末（平成25年3月31日現在） | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| **資産の部** | | | |
| 流動資産 | 51,683 | 60,671 | △ 8,988 |
| 固定資産 | 25,169 | 24,637 | 531 |
| 有形固定資産 | 20,802 | 21,338 | △ 536 |
| 無形固定資産 | 370 | 326 | 44 |
| 投資その他の資産 | 3,996 | 2,972 | 1,023 |
| 資産合計 | 76,852 | 85,309 | △ 8,457 |
| **負債の部** | | | |
| 流動負債 | 24,742 | 31,991 | △ 7,248 |
| 固定負債 | 7,857 | 8,110 | △ 253 |
| 負債合計 | 32,599 | 40,101 | △ 7,501 |
| **純資産の部** | | | |
| 株主資本 | 44,730 | 44,805 | △ 75 |
| 資本金 | 8,225 | 8,225 | – |
| 資本剰余金 | 7,508 | 7,508 | – |
| 利益剰余金 | 29,325 | 29,397 | △ 72 |
| 自己株式 | △ 328 | △ 325 | △ 3 |
| その他の包括利益累計額 | △ 478 | △ 39 | △ 438 |
| 少数株主持分 | – | 441 | △ 441 |
| 純資産合計 | 44,252 | 45,207 | △ 955 |
| 負債純資産合計 | 76,852 | 85,309 | △ 8,457 |

**◆流動資産**
売上債権の減少などにより8,988百万円減少しました。
**◆流動負債**
短期借入金及び仕入債務の減少などにより7,248百万円減少しました。
**◆純資産の部**
会計方針の変更に伴う退職給付に係る調整累計額の計上などにより955百万円減少しました。

## 連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで） | 前期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで） | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 62,096 | 66,718 | △ 4,621 |
| 売上原価 | 47,542 | 49,871 | △ 2,328 |
| 売上総利益 | 14,553 | 16,846 | △ 2,292 |
| 販売費及び一般管理費 | 13,720 | 13,348 | 372 |
| 営業利益 | 833 | 3,498 | △ 2,665 |
| 営業外収益 | 460 | 565 | △ 104 |
| 営業外費用 | 123 | 154 | △ 31 |
| 経常利益 | 1,170 | 3,909 | △ 2,738 |
| 特別利益 | 1 | 15 | △ 14 |
| 特別損失 | 5 | 20 | △ 14 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,166 | 3,904 | △ 2,738 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 758 | 1,193 | △ 435 |
| 法人税等調整額 | △ 256 | 118 | △ 375 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 664 | 2,591 | △ 1,927 |
| 少数株主利益 | – | 27 | △ 27 |
| 当期純利益 | 664 | 2,564 | △ 1,900 |

**◆売上高**
国内では、電力分野をはじめとして設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少し、海外においては、電子産業分野を中心に順調に推移した結果、売上高は62,096百万円と前期に比べて減少しました。
**◆営業利益・経常利益**
機能商品事業において、コストダウン等により採算性が向上したものの、水処理エンジニアリング事業において、売上高の減少や売上構成の変化などにより採算性が低下した結果、営業利益833百万円、経常利益1,170百万円と前期に比べて減少しました。

## 連結キャッシュ･フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで） | 前期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで） |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,619 | △ 1,318 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,347 | △ 1,319 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 5,330 | 291 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 409 | 403 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 1,351 | △ 1,942 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 8,804 | 10,273 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 106 | 473 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 10,261 | 8,804 |

**◆営業活動によるキャッシュ・フロー**
7,619百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は売上債権及びたな卸資産の減少によるものであり、主な支出はリース投資資産の増加及び仕入債務の減少によるものです。
**◆投資活動によるキャッシュ・フロー**
1,347百万円の資金流出となりました。主な支出は投資有価証券及び有形固定資産の取得によるものです。
**◆財務活動によるキャッシュ・フロー**
5,330百万円の資金流出となりました。主な支出は短期借入金及び長期借入金の返済によるものです。

当期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ1,457百万円増加し、10,261百万円となりました。

## 連結株主資本等変動計算書（要旨）（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | その他の包括利益累計額 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | | |
| 当期首残高 | 8,225 | 7,508 | 29,397 | △ 325 | 44,805 | △ 39 | 441 | 45,207 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | △ 576 | — | △ 576 | — | — | △ 576 |
| 当期純利益 | — | — | 664 | — | 664 | — | — | 664 |
| 連結子会社の増加に伴う利益剰余金減少高 | — | — | △ 159 | — | △ 159 | — | — | △ 159 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | △ 4 | △ 4 | — | — | △ 4 |
| 自己株式の処分 | — | — | △ 0 | 1 | 0 | — | — | 0 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | — | — | — | — | — | △ 438 | △ 441 | △ 879 |
| 当期変動額合計 | — | — | △ 72 | △ 3 | △ 75 | △ 438 | △ 441 | △ 955 |
| 当期末残高 | 8,225 | 7,508 | 29,325 | △ 328 | 44,730 | △ 478 | — | 44,252 |

## 単体財務情報

### ■貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期末（平成26年3月31日現在） | 前期末（平成25年3月31日現在） | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| **資産の部** | | | |
| 流動資産 | 36,836 | 45,166 | △ 8,329 |
| 固定資産 | 24,416 | 23,407 | 1,008 |
| **負債の部** | | | |
| 流動負債 | 18,067 | 24,549 | △ 6,481 |
| 固定負債 | 6,117 | 7,533 | △ 1,415 |
| **純資産の部** | | | |
| 株主資本 | 36,878 | 36,314 | 564 |
| 評価・換算差額等 | 190 | 178 | 12 |
| 総資産 | 61,253 | 68,574 | △ 7,320 |

### ■損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで） | 前期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで） | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 34,747 | 41,586 | △ 6,839 |
| 売上原価 | 27,740 | 31,727 | △ 3,987 |
| 売上総利益 | 7,007 | 9,859 | △ 2,851 |
| 販売費及び一般管理費 | 8,334 | 8,395 | △ 60 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △ 1,327 | 1,463 | △ 2,791 |
| 営業外収支 | 2,025 | 1,005 | 1,019 |
| 経常利益 | 697 | 2,469 | △ 1,771 |
| 特別収支 | 141 | 130 | 10 |
| 税引前当期純利益 | 838 | 2,599 | △ 1,760 |
| 法人税等 | △ 305 | 579 | △ 885 |
| 当期純利益 | 1,144 | 2,020 | △ 875 |

注）本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などでご確認ください。

# 連結セグメント別状況

【水処理エンジニアリング事業】

当事業におきましては、国内において産業全般で受注は増加したものの、電力分野をはじめとした設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上は減少しました。一方、海外においては電子産業分野を中心に順調に推移し、受注はほぼ前期並みとなりましたが、売上は増加しました。この結果、受注高は45,814百万円（前期比12.3%増）、売上高は42,112百万円（同11.3%減）となりました。利益面につきましては、売上高の減少のほか、売上構成が変化し、採算性が低下した結果、営業損失691百万円（前期は営業利益2,321百万円）となりました。

【機能商品事業】

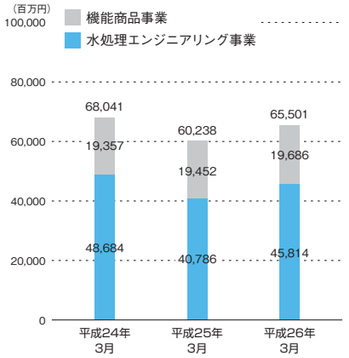
当事業におきましては、顧客工場の操業度が緩やかに回復している中、受注高及び売上高はほぼ前期並みとなる一方、採算性が向上した結果、受注高19,686百万円（前期比1.2%増）、売上高19,983百万円（同3.8%増）、営業利益1,524百万円（同29.5%増）となりました。

■ セグメント別業績

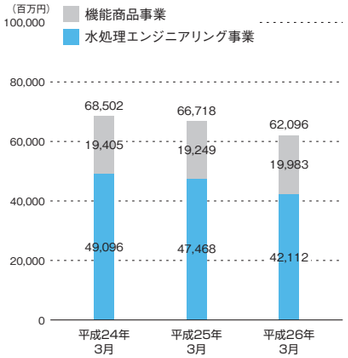
（単位：百万円）

| 科　目 | 当期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで） | 前期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで） | 比較増減 |
|---|---|---|---|
| ■受注高 | | | |
| 水処理エンジニアリング事業 | 45,814 | 40,786 | 5,028 |
| 機能商品事業 | 19,686 | 19,452 | 234 |
| ■売上高 | | | |
| 水処理エンジニアリング事業 | 42,112 | 47,468 | △ 5,355 |
| 機能商品事業 | 19,983 | 19,249 | 733 |
| ■営業利益又は営業損失(△) | | | |
| 水処理エンジニアリング事業 | △ 691 | 2,321 | △ 3,012 |
| 機能商品事業 | 1,524 | 1,177 | 347 |

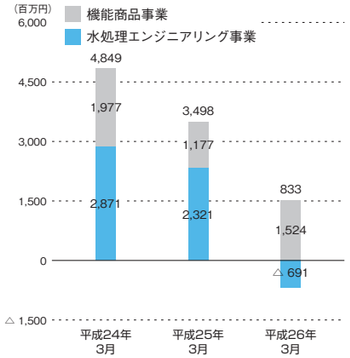
■ 受注高




■ 売上高



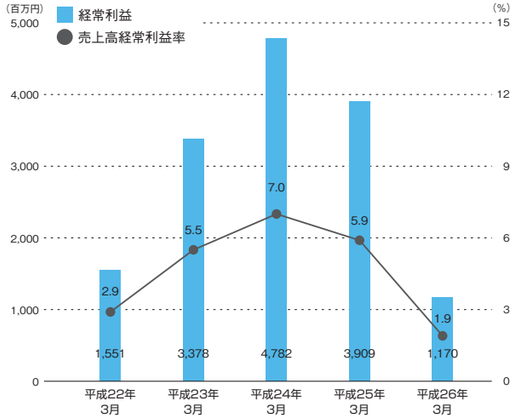

■ 営業利益又は営業損失(△)



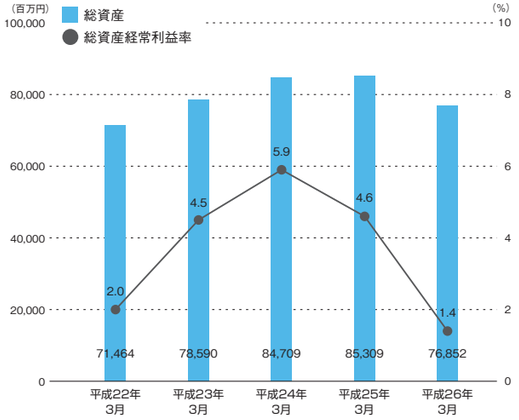

平成25年3月期より、各セグメントの経営実態をより的確に把握できる体制が整ったため、全社共通営業費用のうち各セグメントへの関連が明確な費用については各セグメントに直接賦課する方法に変更しました。なお、平成24年3月期のセグメント情報は、変更後の配賦方法に基づき作成したものです。

# 連結決算ハイライト

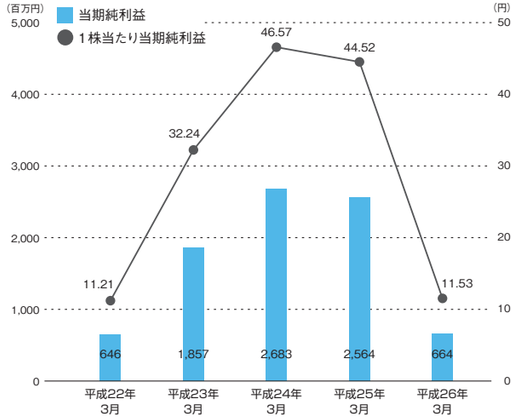
■ 経常利益／売上高経常利益率



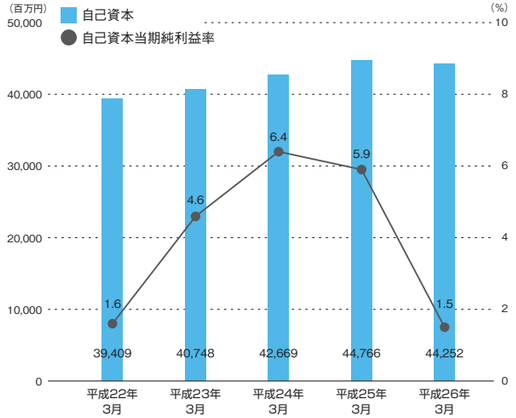

■ 総資産／総資産経常利益率（ROA）




■ 当期純利益／1株当たり当期純利益




■ 自己資本／自己資本当期純利益率（ROE）



# 会社概要（平成26年6月27日現在）

## 会社概要

| | |
|---|---|
| 商　　号 | オルガノ株式会社（英文 ORGANO CORPORATION） |
| 創　　業 | 昭和21年5月1日 |
| 資 本 金 | 8,225,499,312円 |
| 従業員数 | 連結1,896名（単体706名）（平成26年3月31日現在） |
| 事業内容 | 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。 |

## 主要な事業所

| | |
|---|---|
| 本　　社 | 〒136−8631<br>東京都江東区新砂1丁目2番8号 |
| 開発センター | 相模原 |
| 工　　場 | つくば、いわき |
| 事 業 所 | 長崎 |
| 支　　店 | 北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州、台湾 |

## 取締役・監査役・執行役員

| | |
|---|---|
| 取締役社長 | 内田　裕行 |
| 取締役兼常務執行役員 | 浦井　紀久 |
| 取締役兼常務執行役員 | 奥園　修一 |
| 取締役兼常務執行役員 | 渡辺　大輔 |
| 取締役兼常務執行役員 | 伊藤　智章 |
| 取締役兼常務執行役員 | 豊田　正彦 |
| 取締役兼常務執行役員 | 堀　比斗志 |
| 取締役兼執行役員 | 古内　力 |
| 取締役 | 江守　新八郎 |
| 取締役 | 中根　俊章 |
| 常勤監査役 | 中村　聖和 |
| 監査役 | 星　一也 |
| 監査役 | 永井　素夫 |
| 執行役員 | 羽多野　敦 |
| 執行役員 | 梅香　豊 |
| 執行役員 | 明賀　春樹 |
| 執行役員 | 吉田　重人 |
| 執行役員 | 安藤　正士 |
| 執行役員 | 山口　良一 |
| 執行役員 | 高杉　仁 |
| 執行役員 | 池上　理一 |
| 執行役員 | 塩見　正樹 |
| 執行役員 | 福田　和久 |
| 執行役員 | 真鍋　敏樹 |

（注1）内田裕行及び浦井紀久は代表取締役であります。
（注2）中根俊章は社外取締役であります。
（注3）星一也及び永井素夫は社外監査役であります。
（注4）中根俊章及び永井素夫は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

## 主要なグループ会社

### ■ 連結対象子会社

（国内）オルガノプラントサービス(株)
オルガノフードテック(株)
オルガノエコテクノ(株)
オルガノアクティ(株)

（海外）Organo(Asia)Sdn.Bhd.
奥加諾(蘇州)水処理有限公司（オルガノ）
奥璐佳瑙科技股份有限公司（オルガノ・テクノロジー）
Organo(Thailand)Co.,Ltd.

### ■ その他グループ会社

（国内）(株)ホステック
オルガノ・ハイテック(有)
環境テクノ(株)
東北電機鉄工(株)

（海外）Organo(Singapore)Pte Ltd
Organo(Vietnam)Co., Ltd.
PT Lautan Organo Water

（注）オルガノエコテクノ㈱は重要性が増したため、平成26年3月期末より連結対象子会社としました。



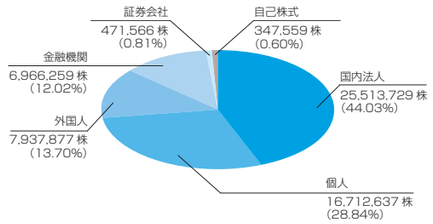
# 株式の状況・株主メモ（平成26年3月31日現在）

## 株式の状況

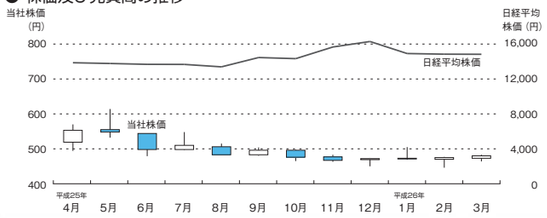
- 発行可能株式総数 …… 126,960,000 株
- 発行済株式総数 …… 57,949,627 株
- 株主総数 …… 8,215 名
- 大株主（上位10名）

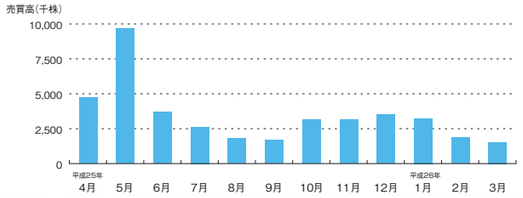
| 株　主　名 | 持株数（千株） | 持株比率（%） |
|---|---|---|
| 東ソー株式会社 | 23,877 | 41.20 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 1,142 | 1.97 |
| ステート　ストリート　バンク　アンド　トラスト　カンパニー | 1,136 | 1.96 |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,000 | 1.73 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 775 | 1.34 |
| CBNY-KOPERNIK GLOBAL ALL-CAP FUND | 701 | 1.21 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 665 | 1.15 |
| ケービーシー　セキュリティーズ　エヌブイ<br>クライアンツ　アカウント　ノン　トリーティー | 630 | 1.09 |
| ノーザン　トラスト　カンパニー（エイブイエフシー）<br>アカウント　ユーエスエル　ノントリーテイ | 520 | 0.90 |
| ザ　チェース　マンハッタン　バンク　エヌエイ<br>ロンドン　エス　エル　オムニバス　アカウント | 454 | 0.78 |

- 所有者別株式分布状況




- 株価及び売買高の推移




## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 基準日 | 定時株主総会の議決権　3月31日<br>期末配当　3月31日<br>中間配当　9月30日 |
| 単元株式数 | 1,000株 |
| 公告掲載方法 | 電子公告<br>公告掲載アドレス　http://www.organo.co.jp/<br>ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 |
| 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 連絡先<br>［郵便物送付先］<br>［電話照会先］ | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社　証券代行部<br>電話0120-782-031（フリーダイヤル） |
| 受付窓口 | 三井住友信託銀行株式会社　全国本支店 |
| ホームページアドレス | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所（市場第一部） |

## 株式に関する諸手続のお申し出先について

■住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。

■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i−Stationを除く）でお取り扱いいたします。